



立花 慶三 議員

Q 保育施設を充実させ、定住人口を増やす

A 〈町長〉
保育施設は4か所、定員450名。待機児童防止対策は、各園の協力により、常に受け入れ可能状況を把握し、年度途中の入所に対応している。

〔Q1〕
待機児童のない、保育環境の充実した町を売りにして移住誘導を図ってはどうか。

〔A1〕
保育施設の量的拡充と質的改善について、第二聖徳幼稚園の認定こども園移行のための補助を行う。町内4つの保育園については新たな開設、建て替え、老朽化による整備などに補助を行い、安全性の確保と環境改善を図っている。

待機児童については、保育士の不足により、昨年度途中で7名が発生した。町としては県の保育士人材バンクを活用するなどの情報提供を行っていく。町外からの待機児童勧誘施策については、受け入れるだけの余裕がないのが実情である。



〔Q2〕
待機児童の数え方について、新たな定義がつくられ、さらに岡山方式については、より住民サイドに立ったものと思うが、具体的にはどういうものか。

〔A2〕
岡山方式とは、国の定義では除外される「希望する保育所に入所できない」いわゆる「隠れ待機児童」を見える化し、受け入れ枠を増やしたものの。希望した保育所3か所の入所がかなわなければ待機児童とみなすもの。



民法 正則 議員

道路交通

Q 無料化を控えた広熊道路の整備状況は

A 〈町長〉
周辺道路からの交通転換を踏まえ、関係機関で協議を進めている。

〔Q1〕
無料開放後における海田大橋の交通量の見込みは。

〔A1〕
現在、約2万1千台で、無料開放後の推計では、約2万4千台となっている。

〔Q2〕
約3千台増えるが、熊野方面からスムーズな走行が可能か。

〔A2〕
海田大橋入口交差点で信号調整、通行区分変更、レーンの追加を講じる。また、県道矢野海田線のオンランプ設置により円滑な交通の確保が可能である。

〔Q3〕
オンランプの効果は具体的にどうか。

〔A3〕
熊野から海田大橋へ



▲現在の平谷交差点の状況

向かう場合、工業団地内で右左折を繰り返している。その結果として、渋滞が発生し通過に時間を要している。ランプ設置により、直進で海田大橋方面に向かうことができる。よって、通過時間の短縮につながるものと考えている。

〔Q4〕
無料化後は、平谷交差点の混雑が予想されるが、その対策は。

〔A4〕
信号調整、通行区分変更、レーンの追加により円滑な交通の確保が可能である。



大瀬戸 宏樹 議員

健康福祉

Q 児童扶養手当の現状と課題は

A 〈町長〉
年々減少傾向で推移している。不正受給防止のため適正な受給指導を続ける。

〔Q1〕
ひとり親家庭の自立のための児童扶養手当だが、その実態は把握できていないように思う。

〔A1〕
本町では平成24年度から29年度の5年間で、世帯数、支給額ともに16%程度減少している。不正受給については、年間2〜3件確認している。対応としては、支給開始時の趣旨説明を十分したうえで、支給資格取得後の毎年の現況届時に窓口面談を行っている。これを基本とし、訪問審査、聞き取り調査などの実態調査を行うなど不正受給の防止に努めている。

〔Q2〕
不正受給の背景には若年層、子育て世代の貧困があると思う。健全な子育てをする上でもこの制度を正しく理解してもらい、指導、支援していきよう努めてもらいたい。さらに受給しないでも我慢している家庭も含め、あらゆる制度を示し、子育て世代の貧困対策に十分力を入れてもらいたい。

〔A2〕
また、町独自のセーフティネットの可能性も今後検討し、安心して子育てができる環境を整えていくよう要望する。



〔A2〕
検討する。



荒瀧 穂積 議員

Q 出来庭地区県道延伸は急務

A 〈町長〉
平成32年度完成が県の方針と伺っている。町も協力する。



▲県道延伸予定地

〔Q1〕
現在、出来庭地区(約32ヘクタール)に複合量販店が出店予定である。町税増も見込まれる。(一部24時間営業・出店側見込み町税分約1千900万円)
町の総合案内、災害時サポートとして要となる立地である。また、苗代・郷原から広島市内への物流の

〔A1〕
重要な県道である。湯崎広島県知事の認識と、町長の働きかけ、熱意はどうか。
町としても重要な県道整備と認識している。平成32年度完了予定との県の方針に基づき、町としてもできる限りの協力を積極的に行っていく。